

牛久：学校周辺に見る自然

第3号 牛久二小

2013年5月11日発行

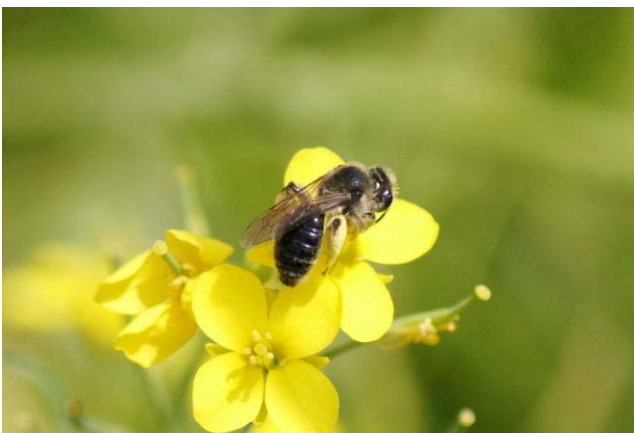
＜ 春の生きもの観察 ～4年生と校庭を歩く ③昆虫 ＞

5/1、牛久二小4年生との校庭の春の生きもの観察。今回は昆虫の仲間の紹介です。



よく見かけるシジミチョウの仲間、ベニシジミ(左)とヤマトシジミ(右)。

まずは、シジミチョウの仲間2種。左はオレンジ色が美しいベニシジミ。写真は春型で、夏になると色が少し変わってきます。どう変わるか、夏になったら比べてみましょう。右はヤマトシジミ。都市部でもよく見られ、だんだんと分布を北に広げているようです。ルリシジミに少し似ていますが、眼の色などで区別できます(24年度14号参考)。また、種類が違くと幼虫の食べる葉も違います。



アブラナの花粉を後肢にびっしりつけたミツクリフシダカヒメハナバチ(左)とヒメハラナガツチバチのメス(右)。

花壇のアブラナにハチが来ていました。後あしや腹部の下側など、花粉がたくさんですね。腹部のふしが盛り上がっていることなどから、ミツクリフシダカヒメハナバチとよばれます。特にアブラナの花にはよく来るようです。右は、ビオトープわきの土の山にいたヒメハラナガツチバチのメス。オスはもようも違うし、触角が長いので、初めて見たときは別の種類かと思いました。メスは土にもぐって、コガネムシの幼虫に産卵します。写真では見えませんが、土を掘るためにあごが大きく発達しています。小さな穴が土山のあちこちあいていましたが、おそらくこのハチのものでしょう。



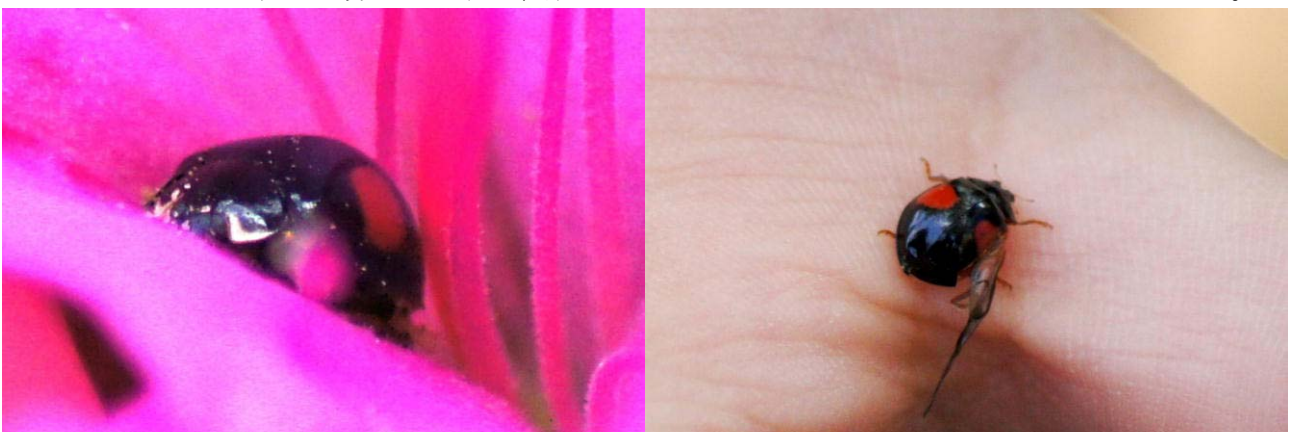
オニタビラコの花に来ていたのは、メスアカケバエというハエの仲間のオス。ハグロケバエのオスと大変よく似ていますが、メスはその名の通り胸部が真っ赤で簡単に見分けられます。ただし、みつや花粉を食べているようすはありませんでした。幼虫は落ち葉を食べるようですが、成虫は何を食べているのでしょうか？

メスアカケバエのオス。メスはその名の通り、胸部が真っ赤で目だつ。



ハチそっくりでみつや花粉を食べるナミハナアブ。はね2枚、触角が短く複眼が大きいことなどからハチと区別できる。

花壇のアブラナには、花から花へとたくさんハチが…とながめていましたが、よく見るとどうやらハナバチの仲間はいくらもいなくて、大部分はハナアブの仲間でした。中でも写真の**ナミハナアブ**が多く見られました。「えっ、ミツバチじゃないの？」という声が聞こえてきそうですが、ハチと違って翅（はね）が2枚しかなく（ハチは4枚）、触角（しよっかく）も短くて、頭のわりに複眼（ふくがん）がとても大きく、腰もくびれてないですね。ハナアブの仲間は、腹部（ふくぶ）にハチそっくりのもようをもつことで、天敵に食べられるのを防ぐ効果があるのだと考えられています。とまっているのをよく見れば分かりますが、飛んでいるのをぼんやりながめても気がつきませんね。



いろいろなもようのもが見られるが、今回は黒地に赤い星2つが多かったナミテントウ。

テントウムシも見つけましたね。今回は黒地に赤い星二つの**ナミテントウ**が大部分でしたが、ナホシテントウを見つけたお友だちもいました。ナミテントウは、同じ種類でもいろいろなもようのもが見られます（22年度第9号参考）。幼虫の時期を低温で過ごすとき黒い部分が多くなるらしいことを、当時つくば市立小野川小6年生の村田篤志君が児童生徒科学研究作品展で発表しています。とてもすばらしい研究で、皆さんのお手本にもなると思います。興味ある方はどうぞ読んでみてください。

<http://www.tsukuba.ed.jp/~298kids/modules/kidsscience/index.php/tebiki/20/073-076.pdf>



オオカマキリの卵のうも、やっと2つ見つけましたね。冬の観察では簡単に見つけますが、葉が茂ってくるころには苦労します。卵のうはだいたい卵を冬の寒さから守るだけでなく、雨も防ぎ適度な湿り気を保って乾燥からも守っています。いつもはたくさん見つかるハラビロカマキリの卵のうが、今回は見つからなかったのが少し気になりますね。

雨や風はもちろん、寒さや乾燥からも卵を守っている、オオカマキリの卵のう。



こちらの小さなバッタは**ヒシバッタ**。幼虫で冬を越し春に羽化する場合と、成虫で冬を越す場合があります、写真は幼虫ですが成虫をつかまえていたお友だちもいましたね。成虫でもはねが短く飛ぶことはできません。参考に以前とった成虫の写真ものせませんが、はねのように見えるのは胸部の背中側が伸びたもので、本当のはねはかくれて見えません。

ヒシバッタの幼虫(上)。成虫もいました。右2枚は成虫(左:2012.10.19牛久二小、右:2012.7.24つくば市)。はねのように見えるのは胸部の背中側がのびたもので、本当のはねは短く飛べない。



「まっ赤な虫が飛んでる〜ッ！」の声に見上げてみると、きれいな赤いカミキリの仲間が飛んでいて近くのサクラの葉にとまりました。カミキリの仲間は木の皮を食べるものが多いですが、この**ベニカミキリ**のように花のみつを食べるものもいます。幼虫は竹を食べるそうなので、ビオトープの竹を食べて育ったのが羽化したものかもしれませんね。その名の通り、まっ赤なベニカミキリ。他の多くのカミキリと違い、花のみつを食べる。幼虫は竹を食べる。



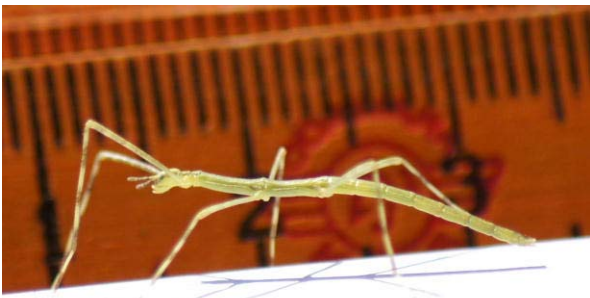
「黄緑色の変な虫がいるんだけど…」と聞かれ行ってみると、サクラの葉に**ツマグロオオヨコバイ**がいました。似た名前のツマグロヨコバイはイネの害虫として知られますが、こちらはいろいろな種類の植物の汁を吸います。人がのぞいたりして危険を感じると、横歩きして葉の裏などに移動するので「横ばい」と名づけられたようです。

いろいろな草や木の汁を吸う、ツマグロオオヨコバイ。



カキの葉を食べていたオオシマカラスヨトウの幼虫（左）と、サクラの葉を食べていたガの幼虫（右）。

さて、第2号のカキの写真を見て、気がついた人はいるでしょうか？じつはよ〜く見ると、写真の右下に幼虫が写っているのです。その拡大が右の写真です。**オオシマカラスヨトウ**というガの幼虫で、エノキやサクラ、どんぐりのなるコナラ、アラカシなどの葉をよく食べますが、この日はカキの葉を食べていました。どちらが前か分かりますか？左のほうに足のような吸盤のようなものが見えますが、これらは本当のあしではなく、右のほうに3対細く見えているのが本物のあしです。昆虫の体であしが出るのは？そう、胸部からでしたね。ですからその右が頭部で、ニセのあしがついている左側が腹部になります。だから、前にあたるのは右側でした。右の写真はガの幼虫と思いますが、名前は分かりません。サクラの葉を食べていました。



最後に観察時には見つかりませんでしたでしたが、同じ日に車の屋根にいた**ナナフシ**の幼虫です。よく似たエダナナフシとは触角の長さが全然違い、こちらは短いので見分けられます。また、幼虫のあしにはしま模様があります。いろいろな木の葉を食べますが、サクラやどんぐりのなる木の枝や幹によく見かけます。探してみましよう。 【理科支援員：宮内】

